

タイトル	彙報・活動・編集後記・規定
著者	
引用	年報新人文学(21)
発行日	2024-12-25

〔彙報〕

令和五年度 大学院文学研究科

◆学位論文題目一覧

修士学位論文

●日本文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
細川 夏歩	現代のパフォーマーが「アイヌプリ」を取り入れる理由

◆ 授業科目及び担当者

● 日本文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅠA	テレンゲト・アイトル教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅠB	テレンゲト・アイトル教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅠC	テレンゲト・アイトル教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅡA	鈴木英之教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅡB	鈴木英之教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅡC	鈴木英之教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	田中 綾教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	田中 綾教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	田中 綾教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	徳永良次教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅣB	徳永良次教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	徳永良次教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅤA	大谷通順教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅤB	大谷通順教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅤC	大谷通順教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA	郡司 淳教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	郡司 淳教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	郡司 淳教授

授業科目	担当教員
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	手塚 薫教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	手塚 薫教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	手塚 薫教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	須田一弘教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	須田一弘教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	須田一弘教授

●英米文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠA	田中洋也教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠB	田中洋也教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠC	田中洋也教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	上野誠治教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	上野誠治教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	上野誠治教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	佐藤貴史教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣB	佐藤貴史教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	佐藤貴史教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤA	渡部あさみ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤB	渡部あさみ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤC	渡部あさみ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅥA	ブシャー・ジェレミ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅥB	ブシャー・ジェレミ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅥC	ブシャー・ジェレミ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦA	森川慎也教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦB	森川慎也教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦC	森川慎也教授

授業科目	担当教員
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠA	柴田 崇教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠB	柴田 崇教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠC	柴田 崇教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA	大森 輝教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	大森 輝教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	大森 輝教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	小松かおり教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	小松かおり教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	小松かおり教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	仲松優子教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	仲松優子教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	仲松優子教授

● 日本文学専攻修士課程

授業科目		担当教員	授業科目		担当教員
日本文学特殊講義 I		関本真乃 准教授	日本語研究特殊講義 II		徳永良次 教授
日本文学特殊講義演習 I A		関本真乃 准教授	日本語研究特殊講義演習 II A		徳永良次 教授
日本文学特殊講義演習 I B		関本真乃 准教授	日本語研究特殊講義演習 II B		徳永良次 教授
日本文学特殊講義 II		田中 綾 教授	日本史特殊講義 I		片岡耕平 准教授
日本文学特殊講義演習 II A		田中 綾 教授	日本史特殊講義演習 I A		片岡耕平 准教授
日本文学特殊講義演習 II B		田中 綾 教授	日本史特殊講義演習 I B		片岡耕平 准教授
日本文学特殊講義 III		中村三春 講師	日本史特殊講義 II		郡司 淳 教授
比較文学特殊講義 I		テレングト・アイトル 教授	日本史特殊講義演習 II A		郡司 淳 教授
比較文学特殊講義演習 I A		テレングト・アイトル 教授	日本史特殊講義演習 II B		郡司 淳 教授
比較文学特殊講義演習 I B		テレングト・アイトル 教授	環境文化特殊講義 J I		手塚 薫 教授
比較文学特殊講義 II		大谷通順 教授	環境文化特殊講義演習 J I A		手塚 薫 教授
比較文学特殊講義演習 II A		大谷通順 教授	環境文化特殊講義演習 J I B		手塚 薫 教授
比較文学特殊講義演習 II B		大谷通順 教授	環境文化特殊講義 J II		須田一弘 教授
日本思想特殊講義 I		鈴木英之 教授	環境文化特殊講義演習 J II A		須田一弘 教授
日本思想特殊講義演習 I A		鈴木英之 教授	環境文化特殊講義演習 J II B		須田一弘 教授
日本思想特殊講義演習 I B		鈴木英之 教授			
日本語研究特殊講義 I		丸島 歩 准教授			
日本語研究特殊講義演習 I A		丸島 歩 准教授			
日本語研究特殊講義演習 I B		丸島 歩 准教授			

## ●英米文化専攻修士課程

授業科目		担当教員	授業科目		担当教員
英米文学特殊講義 I		渡部あさみ教授	欧米思想特殊講義 II		佐藤貫史教授
英米文学特殊講義演習 I A		渡部あさみ教授	欧米思想特殊講義演習 II A		佐藤貫史教授
英米文学特殊講義演習 I B		渡部あさみ教授	欧米思想特殊講義演習 II B		佐藤貫史教授
英米文学特殊講義 II		森川慎也教授	欧米史特殊講義 I		仲丸英起准教授
英米文学特殊講義演習 II A		森川慎也教授	欧米史特殊講義演習 I A		仲丸英起准教授
英米文学特殊講義演習 II B		森川慎也教授	欧米史特殊講義演習 I B		仲丸英起准教授
英語研究特殊講義 I		上野誠治教授	欧米史特殊講義 II		大森一輝教授
英語研究特殊講義演習 I A		上野誠治教授	欧米史特殊講義演習 II A		大森一輝教授
英語研究特殊講義演習 I B		上野誠治教授	欧米史特殊講義演習 II B		大森一輝教授
英語研究特殊講義 III		田中洋也教授	欧米史特殊講義 III		仲松優子教授
英語研究特殊講義演習 III A		田中洋也教授	欧米史特殊講義演習 III A		仲松優子教授
英語研究特殊講義演習 III B		田中洋也教授	欧米史特殊講義演習 III B		仲松優子教授
英語研究特殊講義 IV		ブシャー・ジェレミ教授	環境文化特殊講義 e I		小松かおり教授
英語研究特殊講義演習 IV A		ブシャー・ジェレミ教授	環境文化特殊講義演習 e I A		小松かおり教授
英語研究特殊講義演習 IV B		ブシャー・ジェレミ教授	環境文化特殊講義演習 e I B		小松かおり教授
欧米思想特殊講義 I		小柳敦史准教授	環境文化特殊講義 e II		柴田 崇教授
欧米思想特殊講義演習 I A		小柳敦史准教授	環境文化特殊講義演習 e II A		柴田 崇教授
欧米思想特殊講義演習 I B		小柳敦史准教授	環境文化特殊講義演習 e II B		柴田 崇教授
論文指導		小柳敦史准教授			

文学研究科教育・研究発表活動

◎二〇二四年度 第一回全体ゼミ（中間報告）

七月六日（土） 9：45～12：00、21番教室にて開催された。修士課程と博士（後期課程）に在学する四名の院生が次の題目で論文の構想とその内容の一部を発表した（参加者約20名）。

城田 龍星 「現代英語における発音と綴り字の不一致」

武田 佑希子 「近世国学者における「黄泉比良坂」の解釈とその系譜―後藤夷臣『八雲路日記』を中心に―」

林 香苗 「三浦綾子『銃口』試論―研究史とその課題―」

大村 勅夫 「笹井宏之の短歌の研究 その2―第二歌集『てんとろり』における身体語彙「ゆび（指）」に注目する―」

◎二〇二四年度 第二回全体ゼミ（中間報告）

十一月二日（土） 10：00～12：30、15番教室にて開催された。修士課程に在学する五名の院生が次の題目で論文の構想とその内容の一部を発表した（参加者約20名）。

一色 紗矢香 「現代の変化する漬物にみる食のコミュニケーション―自己表現と生きがい化を中心に―」

藤野戸 柁希 「特定技能2号を目指す外国人のための適切な日本語学習支援のあり方―農業分野における耕種農業を中心に―」

渡辺 駆 「中原中也の詩の音楽性―〈時間〉を中心に―」

多米 玲奈 「幻想の装置としての短歌―葛原妙子を中心に― 第二章 葛原妙子への評価」

中嶋 奏子

「植民地インドにおけるイギリス人女性の植民地経験の多様性―イライザ・フェイの書簡『インドからの手紙』を手がかりに―」

編集後記

●『年報新人文学』第二号をみなさまにお届けします。本号は巻頭言、論文七編、研究ノート一編、資料紹介一編、解説シリーズ—今、何が起きているのか？から構成されています。本号の論考は北海学園大学大学院文学研究科に在籍する研究者や大学院生、および研究科を巣立った気鋭の研究者によって執筆されたもので、いずれも地道な調査・研究活動の成果となっています。執筆者のみなさま、厳正な査読を引き受けてくださった査読者のみなさまに心よりお礼申し上げます。

●巻頭言は、徳永良次教授に「人の「こえ」を聴く」と題して、高山寺の典籍文書のなかから、明恵上人や禅浄房の「奥書」を紹介していただきました。二〇二四年の夏に、北海道立近代美術館で「国宝鳥獣戯画 京都高山寺展 明恵上人と文化財の伝承」が開催されて大いに話題になったことが想起されます。

●「年報 新人文学」創刊号が刊行されたのは、二〇〇五年ですが、それから二〇年近く経過した本年、第二一号を無事に発刊する運びとなりました。創刊号の刊行によせて大濱徹也氏が「国家の下で辺境とされた北の大地から新しき学問の地平をきり拓くにたる飛翔の場たらんとするものです。この種が北の荒野に根づき、大きく育つには幾多の歳月がかかることでありましょう。この歳月に耐えうるには、研究誌として、年ごとに充実していかねばなりません」と述べておられます。その後も本研究科の教員・大学院生が一体となった継続的な努力により、今まさにこの種が開花し始めたのは、望外の慶びとするところです。しかし、時代の趨勢には抗しきれず、次号からはペーパーレス化に移行します。体裁は変わっても中身にいささかの後退があつてはなりません。本誌のシンボルであるフクロウは、暗い時代の到来を予感しながらも、北の大地から新人文学の理想を胸に抱きつつ、これからも飛翔を続けることでしよう。

●本研究科には着実に研究を進めている大学院生が多数在籍しています。本誌は、姉妹誌である『人文論集』とは異なり、査読を経て論考が掲載される学術誌です。大学教員からの論文投稿に加え、大学院生からの投稿も歓迎しています。みずからの研究を世に問ううえで最適の機会ですので、大学院生の皆様も奮ってご投稿ください。

(手塚薫・仲丸英起)

## 『年報 新人文文学』投稿規定

- 一、『年報 新人文文学』は、人文文学に関する広範な分野の研究成果を掲載し、内外の研究交流を図ることを目的とし、年一回発行を原則とする。
- 二、投稿原稿の著者は、人文学部及び文学研究科の所属者でなければならない。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。
- 三、原稿は日本語、あるいは英語とし、種類と分量はそれぞれ次のとおりとする。
  - ①原著論文で未発表のもの、日本語なら二〇、〇〇〇字、英語なら一〇、〇〇〇字程度。
  - ②研究ノート・資料・報告など、日本語なら一二、〇〇〇字、英語なら六、〇〇〇字程度。
  - ③書評など、日本語なら四、〇〇〇字、英語なら二、〇〇〇字程度。
  - ④その他、編集委員会が必要と認めたもの。
- 四、原稿は編集委員会で厳正な審査を行い、採否を決定する。編集委員会は査読結果に基づき、原稿の一部変更を求めることがある。

北海学園大学大学院文学研究科  
『年報 新人文文学』編集委員会